

地理学会ニュース 2019年度 第1号

法政大学地理学会 2019年6月1日発行

法政大学地理学会 2019年度
第1回例会（シンポジウム：法政大学江戸
東京研究センターとの共催）のお知らせ

- 1) テーマ：「東京と江戸をつなぐー風景と場所」
- 2) 日時：2019年7月6日（土）13:30～17:30
- 3) 会場：法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見
ゲート棟 G602 教室

4) プログラム

○開会の挨拶

細田浩（法政大学地理学会会長）

横山泰子（法政大学理工学部・法政大学江
戸東京研究センター長）

○趣旨説明

小原文明（法政大学文学部・法政大学地理
学会）

○講演

米家志乃布（法政大学文学部・法政大学地
理学会・法政大学江戸東京研究センタ
ー）：近代の名所図会・絵地図からみる江
戸イメージ～京・大坂と比較して

牛垣雄矢（東京学芸大学教育学部）：東京
の近代都市整備と神楽坂における地域的個
性の形成

○コメント

横山泰子

根崎光男（法政大学人間環境学部・法政
大学江戸東京研究センター）

○パネルディスカッション

5) シンポジウム開催の趣旨

「東京のなかの江戸」をコンセプトとして、
人々にとっての地域のイメージおよび客観
的に形成される地域の個性について明らか
にすることを目的とする。人文主義的地理学
と実証主義的地理学という人文地理学の二
つの方法論を用いて論じることで、「江戸東
京」という場の個性＝ユニークさを明らか
にする一助としたい。

6) 備考

入場無料、事前受付不要ですので、奮っ
てご参加ください。

法政大学地理学会定期総会

法政大学地理学会定期総会は、2019年5月
11日（土）16時20分より、法政大学市ヶ谷キ
ャンパスポアソナードタワー13階 BT1300 教
室にて開催された。前々英明集会委員長による
開会の辞のあと、議長に小山伸樹会員、書記に
鈴木綾会員を選出して以下の議題に入った。議
題1、2、3、4、5、6については、いずれも常
任委員会より提出された原案が承認された。

（出席者28名 委任状38名 計66名によ
り総会成立）

議事

1. 2018年度事業報告

細田常任委員長より以下の事業報告がなされ、
承認された。

1) 2018年度定期総会の開催、および2019年
度定期総会の開催準備

2018年度定期総会は5月12日（土）に法政大
学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー
BT1300 教室にて16時20分より開催。出席者

23名、委任状40名で成立。同定期総会に先立って同日13時30分から、BT1300教室において評議員会を開催。出席者11名(委任状6名)。いずれも常任委員会から提出された原案が承認された。2019年度定期総会は本日開催にいたっている。

2) 2018年度「法政大学地理学術大会」の開催
法政大学地理学術大会は2019年2月23日(土)に市ヶ谷キャンパスにて文学部地理学科と共催で開催。一般発表30、卒業論文発表91(学会賞推薦候補者発表4を含む)、ポスター発表21の合計121の発表があった。参加者総数299名(学生254名、一般45名)。諸発表終了後、富士見校舎内食堂で懇親会を開催。この会場で第8回法政大学地理学会賞(最優秀卒業論文賞)の選考結果発表と表彰があった。参加者は170名。

3) 第6回「法政大学地理学会賞」(最優秀卒業論文賞)受賞者の選考・決定

法政大学地理学術大会で優秀卒業論文に揚げられたのは鈴木敦、谷はるか、日暮沙弥、西園耕歩の4名。選考委員会は小田宏信氏(成蹊大学経済学部)委員長、大八木英夫氏(日本大学文理学部)、宮地忠幸氏(日本大学経済学部)、市野美夏氏(情報システム研究機構)、前畑明美氏(法政大学)の各選考委員による選考過程を経て、最優秀卒業論文に選ばれたのは谷はるかの「1948年福井地震の液状化の分析と液状化ハザードマップの改善に関する研究」である。

4) 機関誌『法政地理』51号(2019年3月20日発行)と法政地理学会ニュースの発行(年4回発行)

「法政地理」51号は相原正義副会長の記念講演の記録、研究ノート3点、佐藤典人会長の特別寄稿、フォーラム、文献紹介、教室の記事、学会記事を内容とし、総頁102頁であった。

法政地理学会ニュースを以下の通り発行した。

- 第1号 2018年6月1日
- 第2号 2018年10月15日
- 第3号 2018年12月12日
- 第4号 2019年3月22日

5) 例会の開催

第1回例会 2018年6月30日シンポジウム「東京の水環境の現状と課題」をテーマに司会の前杵英明集会委員長から主旨説明があった後、小寺浩二氏(法政大学文学部)、三家本史郎氏・古川正修氏・柴崎洋二氏(国際航業)、三枝隼氏(海上保安庁海洋情報部)、坪井塑太郎氏(国土防災技術株式会社)の各パネリストから講演をいただいた。会場からの質問も活発になされた。14時00分から17時00分まで、法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲートG402教室にて開催、69名の参加であった。

第2回例会 2018年11月17日「東京東部臨海地域の歴史地理—江戸、浦安の舟運と現代臨海部の水辺空間—」案内者:前杵英明氏、米家志乃布氏。中川船番所資料館から、荒川ロックゲート、砂町銀座商店街、浦安郷土博物館など、かなりハードに歩き、全行程を予定どおり完歩した。参加者25名。

6) ホームページの管理・運営

学会開催のイベントごとにホームページにて情報を発信している。ホームページの年度毎の内容更新をしている。ニュースレターの内容、「法政地理」誌50号までの内容をPDFにて掲載。HP問い合わせページの管理やFacebookとの連携をしている。

7) 会員名簿の管理

2018年度末現在会員数 会員総数775名

- 名誉会員:6名
- 一般会員:243名(学内院生15名を含む)
- 学生会員:526名(学部学生441名、通教学生85名)

8) 「法政大学地理学会創立70周年記念論文集」の刊行に関わる事業

9) 「地理学研究奨励金」の授与に関わる事業

2. 2018年度決算報告

狩野会計委員長より以下の決算報告がなされた。

(1) 一般会計

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
会費等	1,200,000	1,346,900
出版補助金	150,000	150,000
雑収入	5,000	7
評議員選挙積立金	60,000	60,000
前年度繰越金	<u>1,067,944</u>	<u>1,067,944</u>
収入合計	2,482,944	2,624,851

【支出】	〈予算〉	〈決算〉
消耗品費	10,000	2,681
印刷費	900,000	966,492
郵送費	200,000	171,836
委員会運営費	220,000	77,060
特別活動援助費	220,000	164,112
支部活動援助費	10,000	0
情報化関連費	4,000	3,395
雑支出(予備費)	3,000	1,296
次年度繰越金	<u>915,944</u>	<u>1,237,979</u>
支出合計	2,482,944	2,624,851

(2) 特別会計(積立金)

【収入】	〈予算〉	〈決算〉
雑収入	0	0
前年度繰越金	<u>7,500,000</u>	<u>7,500,000</u>
収入合計	7,500,000	7,500,000

【支出】	〈予算〉	〈決算〉
雑支出	0	0
次年度繰越金	<u>7,500,000</u>	<u>7,500,000</u>
支出合計	7,500,000	7,500,000

3. 2018年度監査報告

道明紀彦監査・伊藤達也監査より「会計は適正に処理されている」とする監査報告があり、上記2の決算報告とともに承認された。

4. 2018年度事業計画案

細田浩常任委員長より以下の事業計画案が提起され、承認された。

1) 2019年度定期総会の開催,および2020年度定期総会の開催準備

2) 2019年度「法政大学地理学術大会」の開催(2020年2月末予定)

3) 第9回「法政大学地理学会賞」(最優秀卒業論文賞)受賞者の選考と発表

4) 機関誌『法政地理』52号(2020年3月発行)法政地理学会ニュース(4回発行予定)の刊行

5) 例会の開催
シンポジウム(7月),巡検(11月)の開催

6) 学会ウェブサイトおよびfacebook, Twitterの管理・運営
法政地理のPDF掲載など

7) 会員名簿の管理

8) 支部活動の援助等

9) 「法政大学地理学会創立70周年記念論文集」刊行の準備

10) 「地理学研究奨励金」の授与に関わる事業

11) その他

5. 2019年度予算案

狩野会計委員長より以下の予算案が提起され、承認された。

(1) 一般会計

【収入】	〈予算〉
会費等	1,200,000
出版補助金	150,000
雑収入	5,000
前年度繰越金	<u>1,237,979</u>
収入合計	2,592,979

【支出】	〈予算〉
消耗品費	10,000
印刷費	900,000
郵送費	220,000
委員会運営費	100,000
特別活動援助費	200,000
支部活動援助費	10,000
情報化関連費	4,000
雑支出（予備費）	3,000
次年度繰越金	<u>1,145,979</u>
支出合計	2,592,979

(2) 特別会計（積立金）

【収入】	〈予算〉
雑収入	0
前年度繰越金	<u>7,500,000</u>
収入合計	7,500,000

【支出】	〈予算〉
雑支出	5,000
委員会運営費	50,000
研究奨励金給付費	300,000
次年度繰越金	<u>7,145,000</u>
支出合計	7,500,000

6. その他

会長・副会長・会計監査の人事について常任委員会の提案が承認された。また、会長より常任委員長および常任委員の指名があった。

2019年度評議員会の記録

2019年度定期総会に先立ち、2019年5月11日（土）13時30分より、法政大学市ヶ谷キャンパスBT1300教室にて評議員会が開催され、米家志乃布庶務委員長の進行で、2019年度総会議事の説明を行った。出席者は、事前委任状提出者が7名、当日の出席者は14名であった。

特別講演

宍倉正展氏（産総研・海溝型地震履歴研究グループ長）：「地形・地質から読みとく過去の巨大地震」

本年度の特別講演は外部の講師をお願いした。現在、国立研究開発法人・産業技術総合研究所・地質調査総合センター・活断層火山研究部門・海溝型地震履歴研究グループ長の宍倉正展氏に「地形・地質から読みとく過去の巨大地震」という演題で講演をいただいた。宍倉氏は法政大学文学部地理学科の兼任講師も務めておられ、法政大学の教育にご協力もいただいている。講演は非常にうまくまとめられており、地形・地質から読み解くことができる過去の地震痕跡について、まず1. 液状化痕、2. 活断層、3. 隆起痕跡、4. 津波堆積物の4つを提示された。そのうち、今回の講演では、2～4の3つの観点から過去の地震を読み解く手法、調査の過程、結果などについて、たいへんわかりやすく、かつ丁寧に、ときおり、ユーモアをまじえながら、お話しいただき、あっというまの1時間であった。特に3. 11の東日本大震災前に、すでに過去に貞観津波という巨大津波が来ていたことがわかったのに、政府機関（特に地震学者）に理解されず、たいへん残念な結果になったというお話は印象的だった。会場には約50名の参加者が集い、熱心に耳を傾けていただけでなく、多数の質問もあり、たいへん盛会であった。



写真1 講演する宍倉氏



写真2 満員の会場



写真3 活発な質疑応答

地理学教室だより

昨年度の「地理学教室だより」は、地理学科学生の現状をシビアに分析し、問題点が余すことなく記載されていました。それを受けて今年度は、と期待される方もあったかもしれませんが、ごくごく平凡に記載したいと思います。

2019年3月(2018年度)卒業生は84名(うち就職+未定者81名、進学3名)でした。本来なら90名を超えてもおかしくはないのですが、とにかくこの数字でした。

2019年入学者は94名(うち留学生2名)、2年生110名(うち留学生3名)、3年生107名(うち留学生5名)、4年生132名(うち留学生1名)、合計446名(うち留学生11名)が地理学科学生数ということになります。学年ごとの人数を見れば、他の学年に比べて4年生の数がやや多いことにお気づきでしょう。いわゆる

留年生が例年のごとく一定数居る、ということが明らかになります。

とはいえ留年することが悪いことだと即断することもできません。人生にはいろいろな選択肢があり、どの道を選ぶかは各人に委ねられているわけですから、4年生の多さをことさら強調することはできません。留年の理由を問わず、その数の多さのみを取り上げ、それを減らすべきだというのは、余りにも乱暴な議論です。しかもその内部を明らかにした意識調査等は行われていないのですから、粗暴な議論は控えざるを得ません。留学するために留年というかたちになっている人もまた多いのも事実です。

しかしながら留年生全員が4年で卒業することを望んでいたとするならば話は別です。4年での卒業を望みながら、何らかの理由で、留年すること、留年せざるを得ないこと、それ自体は問題にされなければなりません。

2019年度授業もスタートし、当然ゼミもスタートしました。ゼミ生との会話や、ゼミでの学生達の発言等を通して、留年の理由をつかむことも可能になるはずですが。とはいえ留年生がゼミに出席しない、履修登録しない等、彼ら彼女らとの接点が見だしにくいこともまた事実です。例年通り試行錯誤を繰り返して行かざるを得ないでしょう。同級生が少なくなった彼ら彼女らを、どうやってフォローしていくべきか悩みは尽きません。

少なくとも2019年度は132名が、卒業候補になっているという事実だけを確認しておきます。現在留学中の学生を除いて、2019年度の卒業を希望している学生全員がその希望を達成できるよう、われわれ教員も彼ら彼女らに助力していきたいと考えております

(地理学科主任 片岡義晴)

地理学教室(通信教育部)だより

最近、通信教育課程の学生数が減少しており、地理学科は最も学生数の少ない学科となっていますが、今年は例年よりも少し入学者が増えました。通学過程と比較し、幅広い年齢層の学生であり、入学目的も、生涯学習、測量士補や社会科

教員免許の資格取得など多岐にわたっております。

より充実した学習環境を整えるため、古くなった教材の改訂や、メディアスクーリング科目の増設などの努力をしておりますが、特に今年度は力を入れて進めていくつもりです。ご意見・ご希望などあれば、お知らせいただきたいと思っております。

法政大学地理学会の会員には通信教育部の卒業生が多いので、現役学生にもスクーリング等で来校される機会を通じて学会の活動を知っていただき、卒業生との交流の場としても活用していただければと思います。

(通信教育課程主任 小寺浩二)

院・地理学専攻だより

今年度、法政大学大学院人文科学研究科地理学専攻には新たに11名(博士後期課程3名、修士課程8名)のメンバーが加わりました。国際日本学インスティテュート所属の地理学専攻の修士課程1年生2名も合わせると、当学会における大学院生の会員が13名増えたことになり、地理学専攻全体での会員数は22名の大所帯となっています。学会全体の中でもそれなりの人数を占めることになり、また、「地理学研究奨励金」制度も始まりましたので、大学院生のメンバーが学会活動を盛り上げてくれることを期待したいと思います。

(地理学専攻主任 小原文明)

機関誌「法政地理」第52号(2020年3月発行予定)の原稿募集 編集委員会

2020年3月発行予定の機関誌「法政地理」(第52号)の原稿を募集します。投稿は当学会員ならば誰でも可能です。学生、研究者、OBの皆さんから多くの投稿を期待します。投稿希望者は下記の要領で編集委員会までご連絡ください。原稿の種類は論説、研究ノ

ー ト、フォーラム(会員からの情報や話題)、資料解説、文献紹介です。

1. 投稿希望者は2019年8月1日(木)までに、原稿の種類と予定原稿枚数(400字詰原稿用紙に換算)をメールまたは葉書にて編集委員会までお知らせください。
2. 投稿希望者は2019年9月2日(月)必着で、当学会の投稿規程に則り、原稿を送付してください。その際、機関誌巻末の原稿送付状を添え、印字原稿と媒体(CD、USBなど)と一緒に提出してください。
3. 投稿された論文を査読し、必要に応じて修正を求める場合があります。

<連絡先メールアドレス>

heshu@chiri.info

<葉書、及び原稿などの送付先>

〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1
法政大学文学部地理学教室内 「法政大学地理学会編集委員会」宛

法政大学地理学会「地理学研究奨励金」の授与について

地理学研究奨励金授与選考委員会
統括担当者

大塚 一雄(法政大学地理学会副会長)

本奨励金は、本学に在籍する本会学生会員(通学部生、通信教育部生)、および大学院生から、本会の機関誌「法政地理」に投稿・掲載された報文を対象に、授与選考委員会に応募されたものを、審査をして授与する。

授与対象とする報文には、本学在籍中に投稿された報文に加え、学位論文(学士論文、修士論文)をベースとした報文も含む。ただし、学位論文をベースにした場合には、本学へ学位論文を提出した翌年度までの本会機関誌「法政地理」に投稿・掲載された報文を対象とする。

学生会員、ないし大学院生から成る共同執筆の報文も授与対象として認める。ただし、その場合、筆頭執筆者を本奨励金の授与対象

者とする。

なお、共同執筆者に大学の教員が入っている報文は、審査対象とはしない。

以上

<<会員の動向>>

(2019. 3. 24~5. 15 の会員動向です。敬称略、申し込み順)

【入会】

[一般]

磯部 孝志 (東京) / 名取 京子 (大阪)

[学生]

松崎 正紀 (東京) / 中野渡 祐一 (青森)
/ 金澤 一 (愛知)

※学生会員から一般会員への会員種別変更
本橋 淳也 (埼玉) / 飯田 英男 (埼玉)

【訃報】

一般会員 橋爪若子氏は2019年1月、三浦久蔵氏は2019年4月に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

※2018年度に卒業・修了された学生会員ならびに一般会員(院生)は会員種別の変更があった旨を必ず学会までお知らせください。

<<会計委員会より>>

本年度の会費の納付をおねがいします。また、過年度分の会費が未納の方は速やかな納付をお願いします。常任委員会での決定により、現在、2016年度から会費未納の方については機関誌・学会ニュース等の発送を停止しておりますので、会費未納の会員様におかれましては速やかな納入をお願いいたします。なお、インターネットバンキングでの振り込みの際にはできるだけ氏名のほかにニュース送付の際の宛名住所ないしは会員種別と番号(例; 一般/ /500)などの情報を付けて下さい。カタカナの氏名だけですとどなたかが特定できないことがあり、会計処理に支障が出る恐れがありますのでご協力を頂けたら幸いです。なお、ご自身の会費の納付状況をお知りになりたい方は、会計委員会(kaiin_kaihi@chiri.info)までお問い合わせください。本学会は会員皆様の会費によ

って運営されておりますので、その点をご理解いただき、ご協力のほどよろしくお願い致します。

「地籍調査研究会(仮称)の発足について」 (茨城県 伊藤保)

大震災以来、防災上の理由から、地籍調査が注目されています。一筆ごとの土地の情報です。この情報が整備されていれば、災害の復旧が早期に図れるからです。地籍調査を実施する市町村が増えています。

しかし、測量業者の多くは、公共測量を経験しても、地籍調査は未経験です。自治体の職員も同様です。地理学科を卒業して、測量士・測量士補で活躍し、地籍調査を経験している方もおられると思います。未経験でも参加を歓迎します。小生も、県で4年間、検査官を担当しました。

そこで、情報の交換、研究をしたく考えていますので、興味のある方やご質問などがありましたら法政大学地理学会あてにメールでお願いします。

以上

<2019~2020年度・法政大学地理学会役員>

会 長：細田 浩
副 会 長：大塚一雄・松浦久生
監 査：中村圭三・狩野真規
常任委員長：加藤美雄
常 任 委 員：山口隆子・前杢英明・小原丈明・木村成彦・伊藤達也
庶務委員会/山口隆子(委員長)
会計委員会/前杢英明(委員長)・塩谷恭正
集会委員会/小原丈明(委員長)・佐々木星弥
広報委員会/木村成彦(委員長)・永保敏伸・松本昭大・本橋淳也
編集委員会/伊藤達也(委員長)・羽佐田紘大・齋藤 圭・毛 鳳雨・吉原圭佑

評 議 員：伊藤達也(埼玉)・加藤美雄(千

葉)・木村成彦(東京)・小寺浩二(東京)・
小原丈明(東京)・米家志乃布(京都)・小山
伸樹(東京)・近藤章夫(神奈川)・佐藤典人
(埼玉)・塩谷恭正(千葉)・杉山 保(北海
道)・千葉 晃(東京)・中俣 均(新潟)・
羽佐田紘大(東京)・羽田麻美(沖縄)・浜田
弘明(神奈川)・前畑明美(東京)・前杢英明
(東京)・安森直輝(東京)・山口隆子(東京)

評議員の繰り上げ

近藤章夫(神奈川)・羽佐田紘大(東京)

〈〈学会ニュース原稿の募集〉〉

法政大学地理学会ニュースに掲載する原稿を
広く会員の皆様から募集しております。原稿の

ご相談は、下記の連絡先までお願いいたします。

連絡先：庶務委員会 (shomu@chiri.info)

2019年6月1日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <http://www.chiri.info/index.html>

郵便振替 00170-9-167442